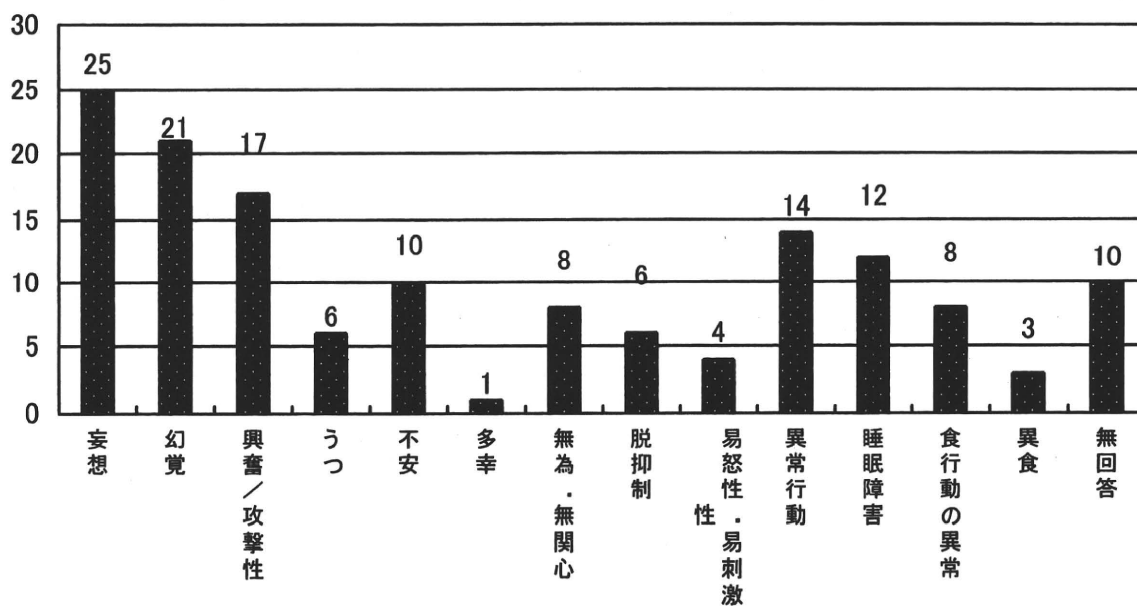
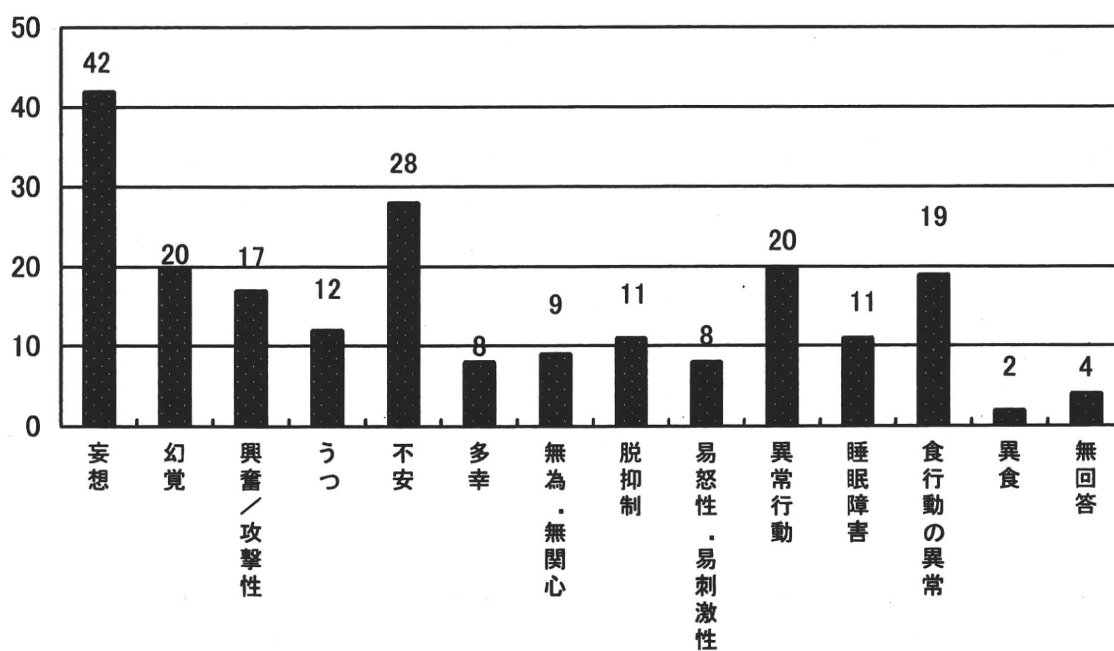


図⑥ 1 番対応に困った人の BPSD (複数回答) その2

一般市民 N=58

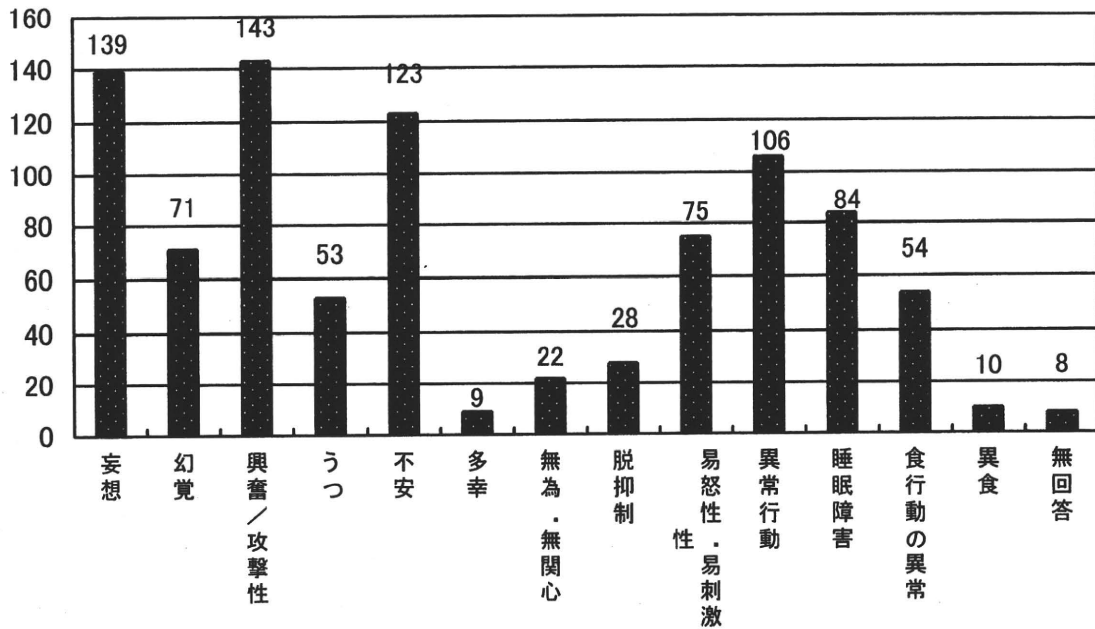


民生委員 N=73

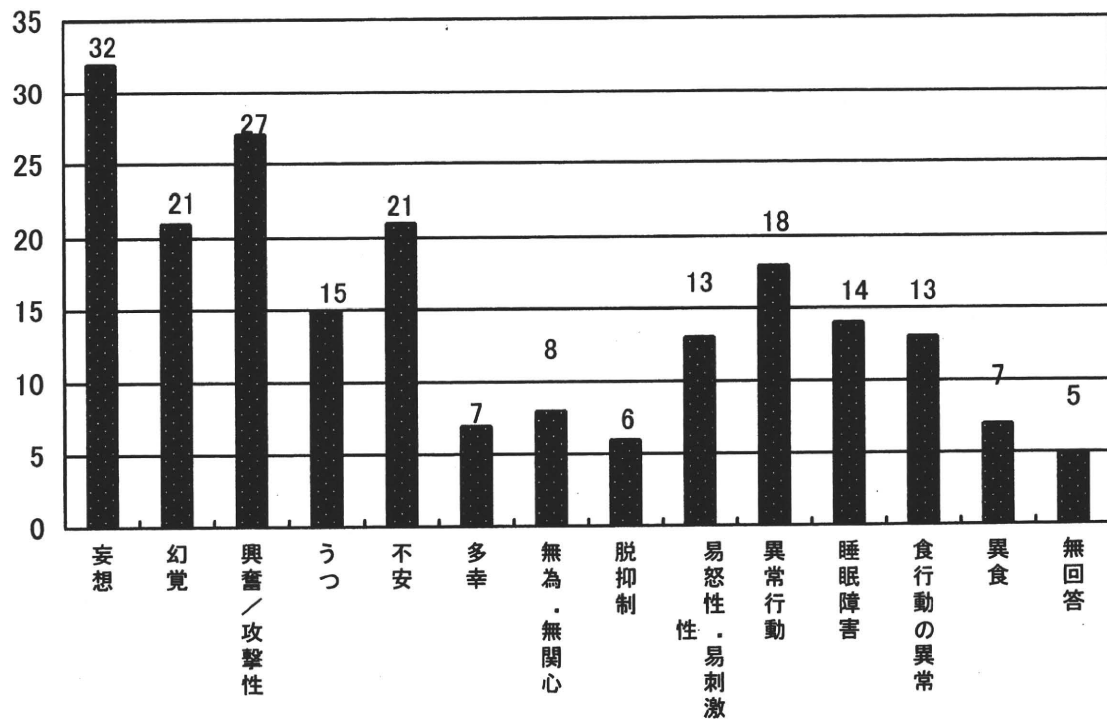


図⑥ 1 番対応に困った人の BPSD (複数回答) その 3

ケアマネジャー N=327

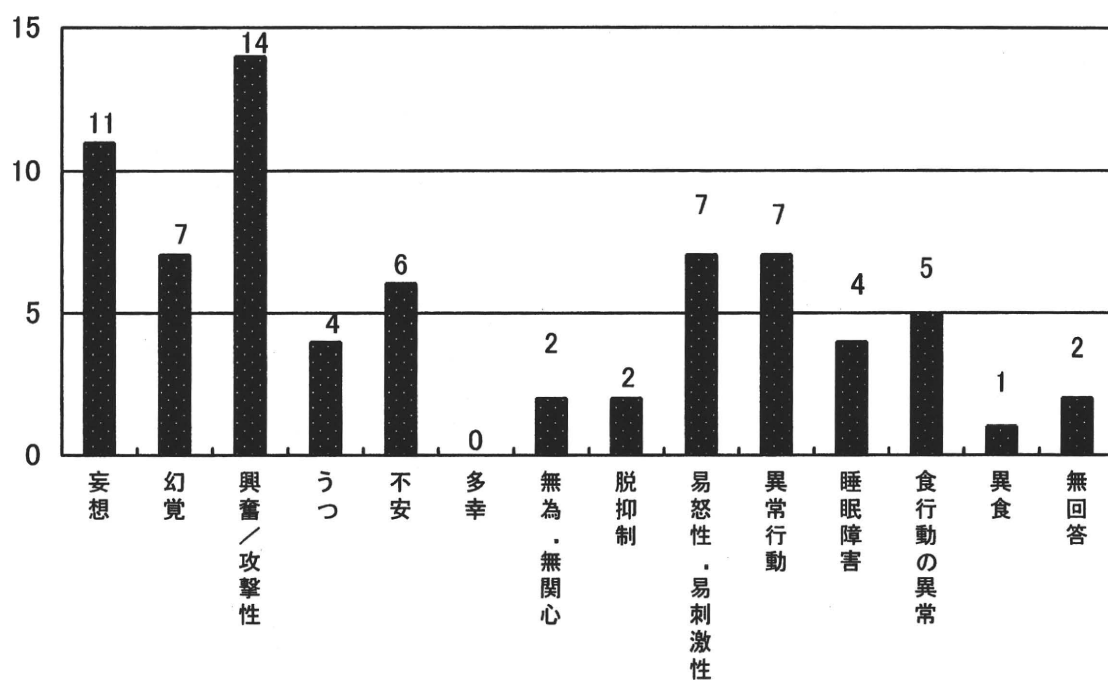


ヘルパー N=60

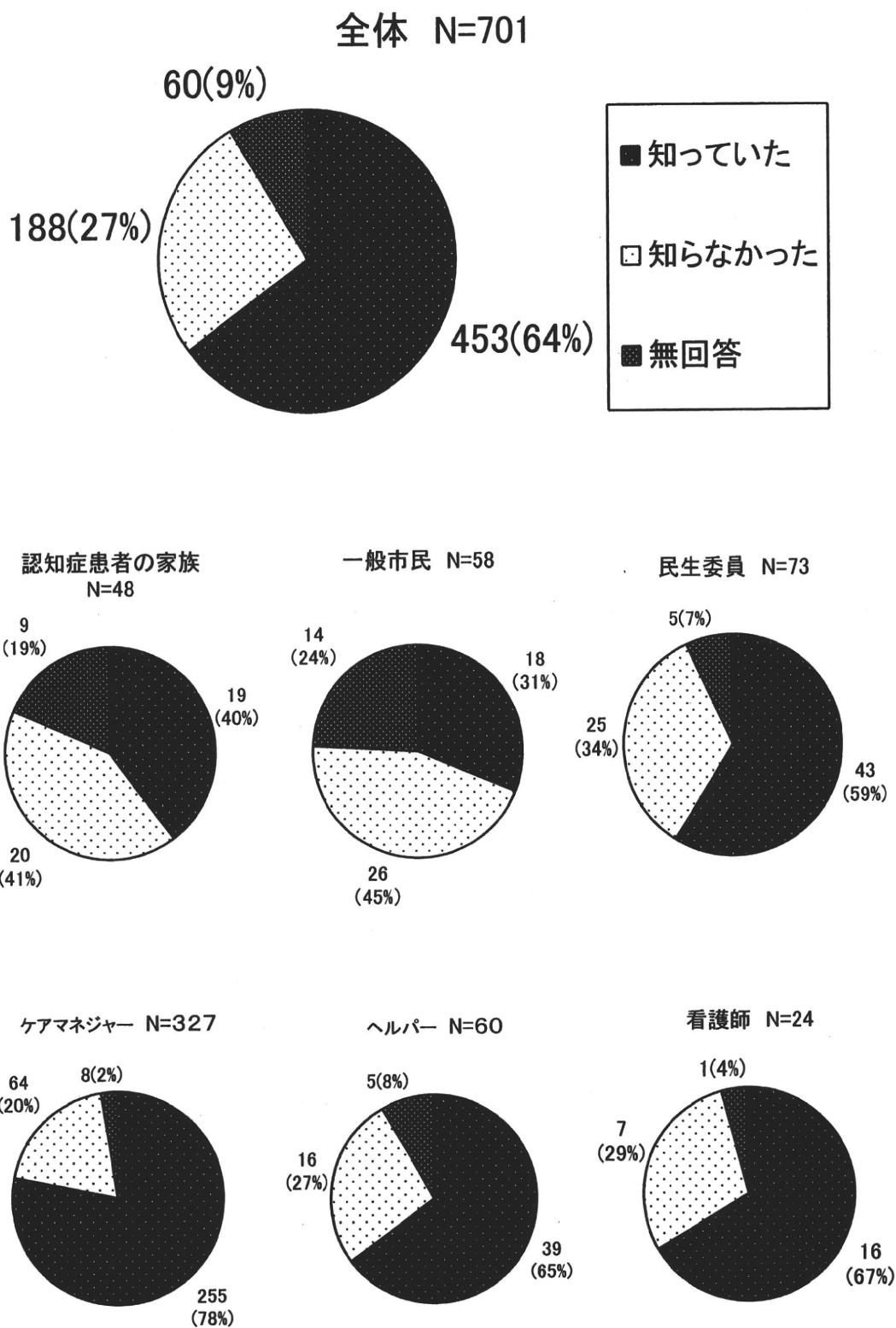


図⑥ 1 番対応に困った人の BPSD (複数回答) その4

看護師 N=24



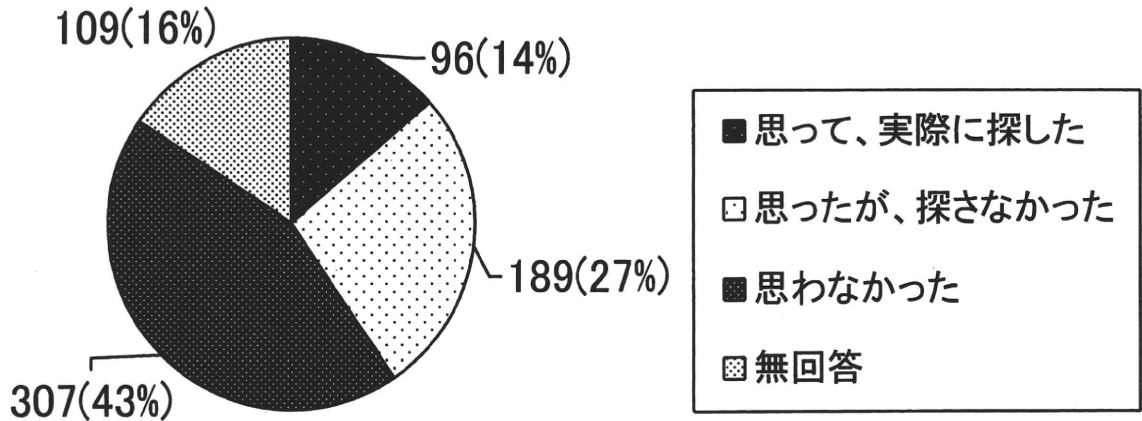
図⑦ BPSD を積極的に治療する医療機関を知っていたか



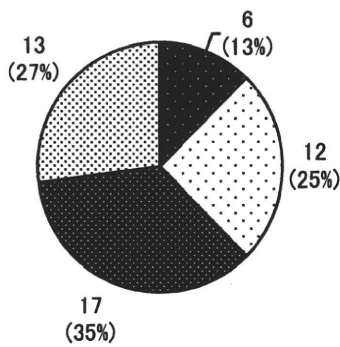
図⑧

BPSD で1番困った人について夜間休日時間帯にぜひ、医療機関を受診させたいと思ったか

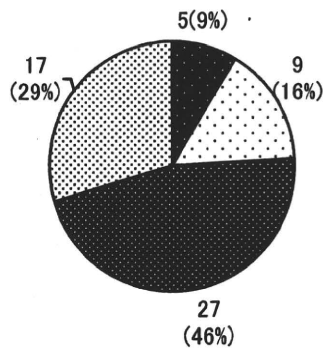
全体 N=701



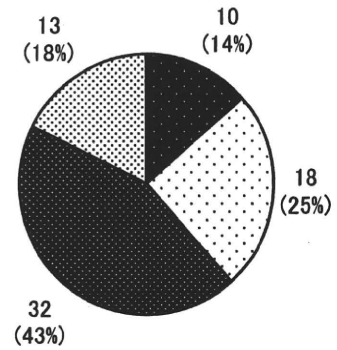
認知症患者の家族 N=48



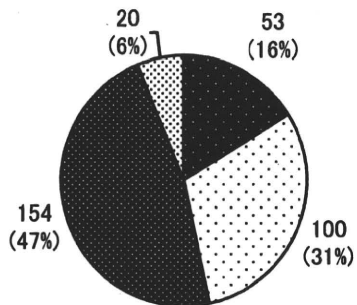
一般市民 N=58



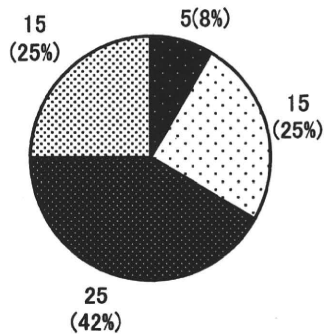
民生委員 N=73



ケアマネジャー N=327



ヘルパー N=60



看護師 N=24

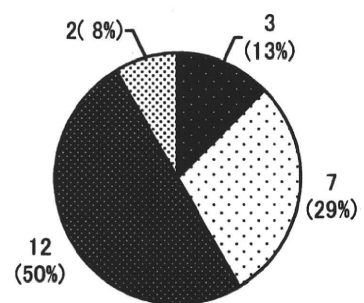


表 ①

夜間休日時間帯に医療機関をぜひ受診させたいと思ったが、探さなかった理由（記載あった物のみ、一部要約）

<認知症患者の家族>

- ・同居の家族が反対した・・・2人
- ・どうしていいか分からなかった
- ・自分ひとりで連れていけない
- ・どのレベルで連れて行けばよいか分からな  
いから
- ・本人が反対した
- ・自分と家族の協力で対応できると思った

<一般市民>

- ・かなり昔のことだったから・・・3人
- ・一人では連れて行けない・・・2人
- ・その人には家族がいたから
- ・ケアマネに連携した

<民生委員>

- ・他の機関に任せた・・・2人
- ・かなり昔のことなので・・・2人
- ・家族や親戚に任せた・・・2人
- ・認知症についてあまり知らなかった・2人
- ・知らなかった
- ・どうせないと思った

<ケアマネジャー>

- ・家族が反対した・・・21人
- ・家族が反対した・・・20人
- ・知らなかった・・・6人
- ・人手がない・・・5人
- ・近くに見てくれる医療機関がない・・・4人
- ・主治医に相談してからだと思った・・・3人
- ・施設入所中は難しい・・・2人
- ・通院手段がない
- ・待てばおさまると思った
- ・薬剤で対応した
- ・すでに専門治療を受けていたから
- ・医療では解決できないと思った
- ・以前に当番病院に拒否された
- ・さわ病院に連れて行っても何もかわらな  
いから
- ・医療で解決できないと判断した

<ヘルパー>

- ・知らなかった・・・4人
- ・家族が拒否した・・・2人
- ・本人が拒否した
- ・ケアマネジャーに任せた

表 ②

実際に医療機関を探したが見つからなかったとき、受診を断られたときどうしたか（記載のあったもののみ、一部要約）

<ケアマネジャー>

- ・翌朝 or 平日に受診した・・・8人
- ・家族と一緒に介護した・・・2人
- ・あきらめた、我慢した・・・2人
- ・平日に往診を依頼した
- ・翌日役所に相談した
- ・翌日担当ケアマネに相談した
- ・内科と精神科のある病院を紹介してもらった
- ・小規模多機能を臨時で利用したら落ち着いた

<民生委員>

- ・包括支援センターに相談して解決した
- ・かかりつけ医に紹介状を書いてもらった

<ヘルパー>

- ・専門外の内科医にみてもらった
- ・施設で対応した
- ・地域内の施設に相談した
- ・翌朝専門医を受診

平成22年度厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業)  
分担研究報告書

島根県下の老人保健施設における認知症の疾患別BPSDの実態調査  
とその対応法に関する研究

分担研究者 西川 隆 (大阪府立大学総合リハビリテーション学科)

研究協力者 大西久男 (大阪府立大学総合リハビリテーション学科)  
大川直澄 (医療法人みどり会中村記念病院)  
中山博識 (社会福祉法人多伎の郷老人保健施設たき)

研究要旨

島根県下の1老健施設において入所者にみられるBPSDの発生頻度と種類、原疾患、認知症の重症度、認知機能、介護負担度を調査した。入所者の84%が認知症を有し、周辺症状は多い順に、無為・無関心、うつ・不快、不安、睡眠障害、興奮、易怒性、異常行動、妄想、幻覚、脱抑制、食行動異常、多幸であった。認知症の重症度と周辺症状の程度・負担は相関しており、介護の負担を有意に増大させる要因として、妄想、不安、無為・無関心、易怒性、異常行動、睡眠障害、食行動異常の7項目が関与していた。またそのうち、「不安」、「無為・無関心」の2項目は全般的なADLの介護負担にも有意な影響を与えていた。対応として、入所者の訴えを無視・否定せず、叱責することを避けて、本人を不安にさせないことが肝要である。

A. 研究目的

老人保健施設に入所者にみられるBPSDの実態を明らかにし、患者への対応法を模索する。

B. 研究方法

島根県下の1老人保健施設の入所者にみられたBPSDの発生頻度とその種類・重症度・介護負担度、ならびに対象者の性・年齢・神経学的症候・認知症尺度・認知機能・ADLを調査した。

BPSDの頻度、重症度、介護負担度に関してはNPI-Q、ADLの介護負担度は兵庫脳研式ADLスケール、認知症の重症度にはCDR、認知機能の評価には直近のMMSE、HDS-Rの成績を用いた。

過去1ヶ月にみられたBPSDの発生頻度とその種類・重症度・介護負担度、ならびに対象者の性・年齢・神経学的症候・認知症尺度・認知機能・ADLを調査した。

(倫理面への配慮)

個人情報について厳重に管理し、データの解析は匿名化して行った。

C. 研究結果

1. 対象者

全50名の平均年齢は86.7±7.4歳、男性12名(平均年齢84.5±9.8歳)、女性38名(平均年齢87.4±6.4歳)であった。

2. 原疾患と認知症重症度の関連

原疾患とCDRの分布を表に示す。

表1 原疾患とCDRの分布

|           | CDR |     |    |    |    | 計  |
|-----------|-----|-----|----|----|----|----|
|           | 0   | 0.5 | 1  | 2  | 3  |    |
| アルツハイマー病  |     | 1   | 3  | 4  | 3  | 11 |
| レビー小体型認知症 |     |     |    |    | 1  | 1  |
| 脳血管障害     | 1   |     | 2  | 6  | 3  | 12 |
| パーキンソン病   |     |     | 1  |    |    | 1  |
| 整形外科疾患    | 2   |     | 5  | 3  | 2  | 12 |
| 心疾患       | 1   |     | 1  | 2  | 1  | 5  |
| その他       | 1   | 2   | 1  | 2  | 1  | 7  |
| 計         | 5   | 3   | 14 | 17 | 11 | 50 |



整形外科疾患は、腰椎挫傷、大腿骨骨折、脊椎骨折、膝関節症。その他は、廃用症候群、肺炎腫、ギランバレー症候群などであった。

CDR 1以上の認知症は84%を占めた。また整形外科疾患や心疾患などを原因疾患とする者もCDR 1以上はアルツハイマー病等の認知症を合併している可能性があると思われた。

### 3. 各種 BPSD の出現頻度

BPSDは多い順に、無為・無関心、うつ・不快、不安、睡眠障害、興奮、易怒性、異常行動、妄想、幻覚、脱抑制、食行動異常、多幸であった。

妄想・幻覚の頻度は多くないが、アルツハイマー病に特異的であった。興奮はアルツハイマー病に多かった。うつ・不快は血管障害に多かった。無為・無関心は疾患に関係なく多かった。易怒性は整形外科疾患に目立った。

### 4. BPSDと認知症重症度の関連

#### 1) 認知症重症度とNPI・NPI負担度の相関

CDRの評定とNPI総点およびNPI負担度の間には有意な相関を認め、認知症の重症度とBPSDの程度・負担は相関していた。

#### (2) CDRとBPSD各項目の相関

CDRの評定は無為・無関心の得点のみに有意な相関を示した。

### 5. BPSDと認知機能の関連

(1) MMSEとHDS-Rの得点は有意に相関。NPI総点とNPI負担度も有意に相関した。しかし、MMSEあるいはHDS-RとNPI総点あるいはNPI負担度の間には相関を認めなかった。

(2) MMSEと無為・無関心の得点に有意な負の相関を認めた。またHDS-Rと興奮の得点に有意な負の相関を認めた。

### 6. BPSDとADL機能の関連

ADL総点とADL負担総点は有意に相関していた。またADL総点およびADL負担総点はいずれもNPI総点およびNPI負担総点と有意に相関していた。認知症の重症度はADL総点およびADL負担総点と有意に相関していた。

## D. 考察

- 1) 1老健施設入所者の84%が認知症であった。
- 2) BPSDは、多い順に、無為・無関心、うつ・不快、不安、睡眠障害、興奮、易怒性、異常行動、妄想、幻覚、脱抑制、食行動異常、多幸であった。
- 3) 認知症の重症度とBPSDの程度・負担は相関していたが、認知機能とBPSDの程度・負担には有意な相関を認めなかった。
- 4) ADL機能とADL負担度は有意に相関していた。
- 5) 介護負担を引き上げる要因となるBPSDは、妄想、不安、無為・無関心、易怒性、異常行動、睡眠障害、食行動異常の7項目であり、不安、無為・無関心の2項目はADLの介護負担を増大させる要因でもあった。

## E. 結論

入所者の訴えを無視・否定せず、叱責することを避けて、本人を不安にさせないことが肝要である。

## F. 研究発表

- 1) 中山博識, 大西久男, 西川 隆: 島根県内の老健施設における認知症の周辺症状と介護負担の実態調査. 島根医学 30(3)39-46, 2010
- 2) 大西久男, 田中宏明, 小島久典, 清水寿代, 大川直澄, 中山博識, 西川 隆: 認知症の疾患別BPSDの実態調査とその対応法に関する研究-老人保健施設およびリハビリテーション専門病院における調査より-. 第25回日本老年精神医学会, 2010

## G. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む。)

1. 特許取得  
なし。
2. 実用新案登録  
なし。
3. その他

地域住民に対する認知症啓発プログラムの長期効果とプログラムの評価指標の検討

研究分担者 河野あゆみ 大阪市立大学大学院看護学研究科  
研究協力者 丸尾 智実 大阪市立大学大学院看護学研究科  
奥田 益弘 社会福祉法人 みささぎ会 藤井寺特別養護老人ホーム  
畑 八重子 社会福祉法人 みささぎ会 藤井寺特別養護老人ホーム  
桑田 直弥 社会福祉法人 みささぎ会 藤井寺特別養護老人ホーム

**研究要旨**

本研究では、1. 地域住民に実施した認知症啓発プログラムの長期効果の検討と、2. プログラムの評価指標として、国外で開発された認知症の知識と認知症介護のコピーングおよび自己効力感尺度の日本語版を作成し、その信頼性と妥当性を検討した。1. では、平成21年度に実施した全3回の認知症啓発プログラムの参加者31人に6カ月後にプログラムの長期効果を検討した結果、認知症のイメージの「認知症になるのは『恥ずかしい』」( $p=.0791$ )と『身近に感じられる』( $p=.0958$ )、認知症の知識 ( $p=.0687$ ) でプログラム前と比べ得点が上昇していたが、統計的に有意ではなかった。課題として、プログラムの効果を適切に評価する指標の確立の必要性が考えられた。2. では、国外で広く使用されている認知症の知識 (ADKS) と認知症介護のコピーング (DQ-CK) および自己効力感尺度 (RSCSE) の日本語版を作成し、介護保険施設職員95人と家族介護者47人の計142人を対象に自記式質問紙調査を行って尺度の信頼性と妥当性を検討した。信頼性はRSCSEでCronbachの $\alpha =.86\sim.92$  ( $n=142$ )、ADKSは家族介護者で $\alpha =.72$  ( $n=47$ ) と確認されたが、日本語訳の再考等課題が残された。妥当性は、施設職員の方が家族介護者よりも各尺度得点が高いとの仮説で検証したが、統計的有意差は認められなかった。以上より、尺度の使用には更なる検討が必要であると考えられた。

**I. 認知症啓発プログラムの長期効果の検討**

**1-A. 研究目的**

認知症高齢者の増加が予想され、認知症の啓発活動の重要性が指摘されている。本研究では、平成21年度に実施した地域住民を対象に行った認知症啓発プログラムの効果が長期的に維持されているかを検討した。

**1-B. 研究方法**

対象者は、平成21年度に実施した全3回の認知症啓発活動プログラムにすべて参加し、半年後の調査に回答した参加者31人とした。評価は前プログラムで効果が認められた認知症へのイメージや知識、BPSDの対応への自己効力感、認知症高齢者を地域で支えることに対する考え方で自記式質問紙調査とした。

**1-C. 研究結果**

対象者は平均年齢 70.1 才 (SD,7.0) で女性 24

人 (77.4%) であった。プログラムの効果は、認知症のイメージの「認知症になるのは『恥ずかしい』」( $p=.0791$ )と「認知症は『身近に感じられる』」( $p=.0958$ )、認知症の知識 ( $p=.0687$ ) でプログラム前より得点が上昇していたが、統計的に有意ではなかった。

**1-D. 考察**

プログラム後に適切な認知症のイメージや知識が維持されていたことから、地域住民への認知症啓発の重要性が示された。しかし、本研究では対照群を設定しなかったことや効果を適切に評価できる尺度でなかったことから、結果の解釈に限界があると考えられた。

**II. プログラムの評価指標の検討**

**2-A. 研究目的**

認知症高齢者の介護者への支援の重要性が指

摘され介護者に対する様々な介入が行われているが、それらの評価指標は確立まで至っていない。本研究では、国外で使用されている認知症の知識スケール；Alzheimer Disease of Knowledge Scale (ADKS) と認知症介護のコーピング；Dementia QuizzesのCoping Knowledge (DQ-CK)、認知症介護の自己効力感；The Revised Scale for Caregiving Self-Efficacy (RSCSE) の日本語版を作成し信頼性と妥当性を検討した。

## 2-B.研究方法

各尺度は逆翻訳と順翻訳を経て日本語版を作成した。項目分析と Cronbach の  $\alpha$  係数で内的整合性を確認し、「認知症高齢者を介護する施設職員は、家族介護者に比べ認知症の知識が多く、認知症介護のコーピングと自己効力感が高い」という仮説を立て弁別的妥当性を検討した。調査方法は自記式質問紙とし、対象者は大阪府下の2介護保険施設職員95人と家族介護者49人の計144人のうち有効回答が得られた142人とした。調査内容は基本属性と作成したADKS、DQ-CK、RSCSEの日本語版とした。

## 2-C.研究結果

施設職員は平均年齢34.5歳(SD,11.7)で女性62人(65.3%)、職年数5年以上が45人(47.9%)、介護福祉士51人(53.7%)であった。家族介護者は平均年齢64.5歳(SD,10.7)で女性36人(76.6%)、介護平均年数4.2年(SD,3.1)、実父母の介護者が25人(53.2%)であった。

ADKSは、全分析対象者のI-T分析の結果が $r=-.2071\sim.4035$ であった。内的整合性は $\alpha=.59$ であったが、家族介護者のみでは $\alpha=.72$ であった。妥当性は、施設職員の平均点が19.5点(SD,3.1)で家族介護者の18.8点(SD,3.9)より高かったが有意ではなかった。

DQ-CKは、全分析対象者のI-T分析の結果が $r=-.0992\sim.1832$ 、内的整合性が $\alpha=.19$ で、対象者別でも同様の傾向であった。妥当性は、施設職員の平均点が6.0点(SD,1.2)で家族介護者の4.6

点(SD,1.5)と比べ有意に高かった( $p<.001$ )。

RSCSEは、全分析対象者および対象者別のI-T分析の結果が $r=.5530\sim.8501$ 、内的整合性は3つの下位尺度で $\alpha=.86\sim.92$ であった。因子分析では、原尺度と同様の因子構造を確認した。妥当性は施設職員の平均点と比べ家族介護者の方が高いものもあり、統計的な差はみられなかった。

## 2-D.考察

ADKSは家族介護者で内的整合性が一定基準以上であったことから使用できる可能性が考えられた。DQ-CKは、妥当性が認められたが信頼性が確認できず日本語版での使用は難しいと考えられた。RSCSEは項目分析、内的整合性で一定の信頼性が確認できた。以上より、ADKSとRSCSEは、日本語版の使用可能性が示唆されたが、日本語の再考や妥当性で更なる検討の必要性が示された。

## E.結語

本研究はプログラムの長期効果の検討から効果的な評価指標の確立を目指した。評価指標の確立には更なる検討が必要であるが、国外との共通尺度でプログラムを評価できる可能性が示された。

## F.健康危険情報 なし

## G.研究発表<学会発表>

- 1)丸尾智実、河野あゆみ:地域で認知症高齢者を支えることを目的とした認知症啓発プログラムの効果—認知症の人との関わりの経験の有無による効果の検討—, 第52回日本老年社会科学学会, 2010/6/17-18: 愛知.
- 2)丸尾智実、河野あゆみ:地域住民に対する認知症高齢者を理解するための啓発プログラムへの参加要因の検討, 第69回日本公衆衛生学会, 2010/10/27-29: 東京.
- 3)Satomi Maruo, Ayumi Kono: Effect of Community Supportive Care Program for Maintaining Daily Lives of Elders with Dementia, The Gerontological Society of America 63rd Annual Scientific Meeting, 2010/11/19-23: New Orleans(U.S.A.).
- 4)丸尾智実、河野あゆみ:地域住民に対する認知症高齢者を理解するための啓発プログラムの評価:参加者の発言の内容分析による検討, 第30回日本看護科学学会, 2010/12/3-4: 札幌.

## H.知的財産権の出願・登録状況 なし

### Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

## 研究成果の刊行に関する一覧表レイアウト(参考)

## 書籍

| 著者氏名      | 論文タイトル名                         | 書籍全体の編集者名               | 書籍名                                     | 出版社名     | 出版地 | 出版年  | ページ       |
|-----------|---------------------------------|-------------------------|-----------------------------------------|----------|-----|------|-----------|
| 数井裕光      | 第XIV章精神の症状・徴候と疾患 2 精神疾患、H正常圧水頭症 | 松田 暉、荻原俊男、難波光義、鈴木久美、林直子 | 看護学テキストNICE 疾病と治療 I I I                 | 南江堂      | 東京  | 2010 | 247-249   |
| 武田雅俊、数井裕光 | I I I 精神疾患における前頭葉の構造と機能 1 認知症   | 福田正人、鹿島晴雄               | 専門医のための精神科リユミエール21前頭葉でわかる精神疾患の臨床        | 中山書店     | 東京  | 2010 | 92-100    |
| 数井裕光      | その他の認知症                         | 大内尉義、秋山弘子               | 新老年学第3版                                 | 東京大学出版   | 東京  | 2010 | 1216-1224 |
| 数井裕光、武田雅俊 | 代表的疾患 5. 特発性正常圧水頭症              | 三村 将                    | 新しい診断と治療のABC 6 6 認知症                    | 最新医学社    | 大阪  | 2010 | 107-115   |
| 遠藤英俊      |                                 | 遠藤英俊                    | 高齢者への服薬指導Q&A                            | 医薬ジャーナル社 | 大阪  | 2010 | 203頁      |
| 遠藤英俊      | 9-2-5認知症 第9章精神科医療               | 精神保健福祉白書編集委員会           | 精神保健福祉白書2011年版 岐路に立つ精神保健医療福祉—新たな構築をめざして | 中央法規出版   |     | 2010 | 217頁      |
| 澤 温       | 精神科救急                           | 精神保健福祉白書編集委員会           | 精神保健福祉白書2011年度版                         | 中央出版     | 名古屋 | 2010 | 138       |
| 河野あゆみ     | 地域看護活動と科学的根拠                    | 横山美江                    | よくわかる地域看護研究の進め方・まとめ方                    | 医歯薬出版    | 東京  | 2010 | 112-137   |
| 河野あゆみ     | 閉じこもり                           | 鳥羽研二                    | 高齢者の生活機能の総合的評価                          | 新興医学出版社  | 東京  | 2010 | 127-131   |

雑誌

| 発表者氏名                                                                                                                                                                                                                                                              | 論文タイトル名                                                                                                                                                    | 発表誌名                       | 巻号  | ページ     | 出版年  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|-----|---------|------|
| Kazui H, Yoshida T, Takaya M, Sugiyama H, Yamamoto D, Kito Y, Wada T, Nomura K, Yasuda Y, Nomura K, Yamamori H, Ohike K, Fukumoto M, Iike N, Iwase M, Morihara T, Tagami S, Shimosegawa E, Hatazawa J, Ikeda Y, Uchida E, Tanaka T, Kudo T, Hashimoto R, Takeda M. | Different characteristics of cognitive impairment in elderly schizophrenia and Alzheimer's disease in the mild cognitive impairment stage.                 | Dement Geriatr Cogn Disord |     | 20      | 2011 |
| Yoshida T, Kazui H, Tokunaga H, Kito Y, Kubo Y, Kimura N, Morihara T, Shimosegawa E, Hatazawa J, Takeda M.                                                                                                                                                         | Protein synthesis in the posterior cingulate cortex in Alzheimer's disease.                                                                                | Psychogeriatrics           | 11  | 40-45   | 2011 |
| Takaya M, Kazui H, Tokunaga H, Yoshida T, Kito Y, Wada T, Nomura K, Shimosegawa E, Hatazawa J, Takeda M.                                                                                                                                                           | Global cerebral hypoperfusion in preclinical stage of idiopathic normal pressure hydrocephalus.                                                            | J Neurol Sci               | 298 | 35-41   | 2010 |
| Ishii R, Canuet L, Kurimoto R, Ikezawa K, Aoki Y, Azechi M, Takahashi H, Nakahachi T, Iwase M, Kazui H, Takeda M.                                                                                                                                                  | Frontal shift of posterior alpha activity is correlated with cognitive impairment in early Alzheimer's disease: a magnetoencephalography-beamformer study. | Psychogeriatrics           | 10  | 138-143 | 2010 |

|                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                  |                                        |      |           |      |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------|------|-----------|------|
| Hashimoto R, Ohi K, Yasuda Y, Fukumoto M, Iwase M, Iike N, Azechi M, Ikezawa K, Takaya M, Takahashi H, Yamamori H, Okochi T, Tanimukai H, Tagami S, Morihara T, Okochi M, Tanaka T, Kudo T, Kazui H, Iwata N, Takeda M. | The impact of a genome-wide supported psychosis variant in the ZNF804A gene on memory function in schizophrenia.                                 | Am J Med Genet B Neuropsychiatr Genet. | 153B | 1459-1464 | 2010 |
| Takahashi H, Iwase M, Canuet L, Yasuda Y, Ohi K, Fukumoto M, Iike N, Nakahachi T, Ikezawa K, Azechi M, Kurimoto R, Ishii R, Yoshida T, Kazui H, Hashimoto R, Takeda M.                                                  | Relationship between prepulse inhibition of acoustic startle response and schizotypy in healthy Japanese subjects.                               | Psychophysiol                          | 47   | 831-837   | 2010 |
| Azechi M, Iwase M, Ikezawa K, Takahashi H, Canuet L, Kurimoto R, Nakahachi T, Ishii R, Fukumoto M, Ohi K, Yasuda Y, Kazui H, Hashimoto R, Takeda M.                                                                     | Discriminant analysis in schizophrenia and healthy subjects using prefrontal activation during frontal lobe tasks: A near-infrared spectroscopy. | Schizophr Res                          | 117  | 52-60     | 2010 |
| 杉山博通、数井裕光、木藤友実子、高屋雅彦、吉田哲彦、徳永博正、澤温、武田雅俊                                                                                                                                                                                  | 著明な前頭葉症状と失語症状を呈した機能性精神病の1例                                                                                                                       | 精神医学                                   | 52   | 499-506   | 2010 |

|                                     |                                                                    |                                |             |               |       |
|-------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|--------------------------------|-------------|---------------|-------|
| 木藤友実子、数井裕光、吉田哲彦、久保嘉彦、高屋雅彦、徳永博正、武田雅俊 | 経時的に詳細な言語機能評価をした運動ニューロン疾患を伴う意味性認知症の1例                              | Brain and Nerve                | 62          | 625-630       | 2010  |
| 数井裕光、武田雅俊                           | 認知症をどう診るか？認知症診療の実際誌上ディベート 認知症の予防介入はいつ始めるべきか？ MCI の段階から介入するべきとの立場から | Cognition and Dementia         | 9           | 66-70         | 2010  |
| 木藤友実子、数井裕光、武田雅俊                     | 意味性認知症 (semantic dementia)                                         | Cognition and Dementia         | 9           | 32-36         | 10    |
| 和田民樹、数井裕光、武田雅俊                      | 軽度認知症スクリーニングテストとしてのリバーミード行動記憶検査                                    | 老年精神医学雑誌                       | 21          | 177-182       | 2010. |
| 野村慶子、数井裕光、武田雅俊                      | 脳の老化と認知機能の変化                                                       | 分子精神医学                         | 10          | 126-129       | 2010. |
| 数井裕光、武田雅俊                           | 治る認知症を鑑別するための留意点                                                   | CLINICIAN                      | 57          | 375-380       | 2010  |
| 遠藤英俊                                | 後期高齢者医療と老年医学                                                       | 日本老年医学雑誌                       | 47(2)       | 95-100        | 2010  |
| 遠藤英俊、佐竹昭介、三浦久幸                      | [各論] 認知症                                                           | 臨床スポーツ医学                       | 27(11)      | 1247-1249     | 2010  |
| 遠藤英俊、三浦久幸                           | 特集 認知症治療の今後を予測する 1. 認知症治療の現状と今後                                    | 医薬ジャーナル                        | 46(5)       | 67-71         | 2010  |
| 遠藤英俊、木之下徹、永田久美子、東海林幹夫、田口真源          | 特集 I 認知症・BPSD の医療とケアの今                                             | Science of Kanpo Medicine 漢方医学 | 34(2)       | 94(8)-106(20) | 2010  |
| 遠藤英俊、三浦久幸                           | 社会的・制度的支援と家族介護<br>1) 介護保険                                          | 神経内科                           | 72(Suppl.6) | 217-221       | 2010  |
| 遠藤英俊                                | 「わが旅」ジャマイカへの旅                                                      | 日本医師会雑誌                        | 139(4)      |               | 2010  |



|                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                      |                                            |          |           |      |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|----------|-----------|------|
| 遠藤英俊、佐竹昭介、洪英在、田代真耶子、三浦久幸、近藤真由                                                                                                                                                                                                                                                                       | 認知症の新しい治療<br>2. 音楽療法                                                                                                                                 | 内科系総合雑誌 モダンフイジシャン                          | 30(9)    | 1169-1172 | 2010 |
| 藤城弘樹、井関栄三                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 高齢者の幻覚妄想と病理学的背景                                                                                                                                      | 老年精神医学雑誌                                   | 21 巻 6 号 | 671-676   | 2010 |
| 藤城弘樹、井関栄三、村山憲男、笠貫浩史、太田一実、荒井平伊、佐藤潔                                                                                                                                                                                                                                                                   | 特発性レム睡眠行動障害の長期経過の後に、場所依存性に幻視が出現したレビー小体型認知症の 1 例                                                                                                      | 精神医学                                       | 53 巻 1 号 | 7-13      | 2011 |
| Kimura R, Morihara T, Kudo T, Kamino K, Takeida M                                                                                                                                                                                                                                                   | Association between CAG repeat length in the <i>PPP2R2B</i> gene and Alzheimer disease in the Japanese population                                    | Neuroscience letters                       | 487      | 354-357   | 2011 |
| Hayashi N, Kazui H, Kamino K, Tokunaga H, Takakaya M, Yokokoji M, Kimura R, Kito Y, Wada T, Nomura K, Sugiyama H, Yamamoto D, Yoshida T, Antonio Currais, Salvador Soriano, Hamasaki T, Yamamoto M, Yasuda Y, Hashimoto R, Tanimukai H, Tagami S, Okochi M, Tanaka T, Kudo T, Morihara T, Takeida M | <i>KIBRA</i> Genetic Polymorphism Influences Episodic Memory in Alzheimer's Disease, but Does Not Show Association with Disease in a Japanese Cohort | Dementia and Geriatric Cognitive Disorders | 30       | 302-308   | 2010 |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                       |                        |               |           |      |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------|---------------|-----------|------|
| Ohi K,<br>Hashimoto R,<br>Yasuda Y,<br>Yoshida T,<br>Takahashi H,<br>Iike N, Iwase M,<br>Kamino K, Ishii R, Kazui K,<br>Fukumoto M,<br>Takamura H,<br>Yamamori H,<br>Azechi M,<br>Ikezawa K,<br>Tanimukai H,<br>Tagami S,<br>Moriyama T,<br>Okochi M,<br>Yamada K,<br>Numata S,<br>Ikeda M,<br>Tanaka T, Kudo T, Ueno I,<br>Yoshikawa T,<br>Ohmori T, Iwata N, Ozaki N,<br>Takeda M. | The <i>chitinase 3-like</i> gene and schizophrenia: Evidence from a multi-center case-control study and meta-analysis | Schizophrenia Research | 116           | 126-132   | 2010 |
| 森原剛史、林紀行、横小路美貴子、武田雅俊                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 連載 認知症臨床に役立つ生物学的精神医学②<br>アルツハイマー病と遺伝要因                                                                                | 老年精神医学雑誌               | 第 21 巻 第 11 号 | 1261-1270 | 2010 |
| 山川みやえ、中岡亜希子、繁信和恵、手塚大喜、西方志織、牧本清子、田伏薫                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 入院前後の活動リズムを IC タグモニタリングシステムにより比較した前頭側頭型認知症の 1 例                                                                       | 老年精神医学雑誌               | 21 巻          | 695-701   | 2010 |
| 田伏薫                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 地域のなかの精神科医の役割                                                                                                         | 日本精神科病院協会雑誌            | 29 巻          | 37-41     | 2010 |
| 繁信和恵                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | プライマリーケアのための認知症治療 How-to 第 3 回認知症ケアに必要な書類と専門医療機関紹介                                                                    | Cognition and Dementia | Vol.9 No 3    | 252-258   | 2010 |

|                |                                        |              |        |         |      |
|----------------|----------------------------------------|--------------|--------|---------|------|
| 繁信和恵           | 行動療法的アプローチ・環境調整                        | 精神科治療学       | 巻：24   | 233-235 | 2009 |
| 繁信和恵           | 頭側頭型認知症のBPSD                           | 老年精神医学雑誌     | 21(8)  | 867-871 | 2010 |
| 澤温、平田豊明        | 日本精神科救急学会ガイドライン作成の経緯と現状                | 病院・地域精神医学    | 53-2   | 215-217 | 2010 |
| 澤 温            | 医療現場における抗精神病薬矯正投与の実情と問題点               | 臨床精神薬理       | 14-1   | 17-23   | 2010 |
| 澤 温            | 医療機関におけるアウトリーチ                         | 精神科臨床サービス    | 11-1   | 37-41   | 2010 |
| 中山博識、大西久男、西川 隆 | 島根県内の老健施設における認知症の周辺症状と介護負担の実態調査        | 島根医学         | 30(3)  | 39-46   | 2010 |
| 河野あゆみ          | 高齢者の「閉じこもり」へのアプローチ；寝たきりを未然に防ぐために       | 日本未病システム学会雑誌 | 16(1)  | 95-99   | 2010 |
| 河野あゆみ          | 独居男性高齢者のための地域交流促進をめざしたグループワークにおけるプロセス  | 日本地域看護学会誌    | 12(2)  | 45-50   | 2010 |
| 藤田俱子、河野あゆみ他    | 介護保険サービス未利用の要支援認定高齢者を対象にした予防訪問プログラムの開発 | 保健師ジャーナル     | 66(10) | 924-929 | 2010 |

#### IV. 研究成果の刊行物・別刷